

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

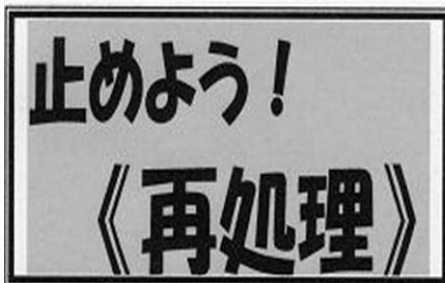
郵便振替 02240-5-102650

ホームページ《再処理/岩手の環境》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k\_imag



《天恵の海》

2011(平成23)年

8月20日

第102号

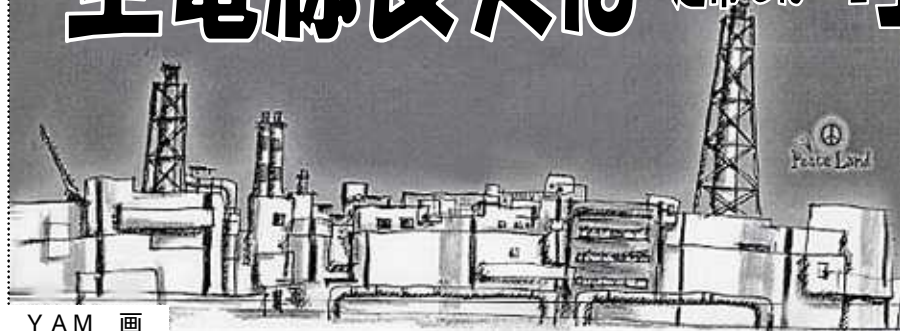
編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

# 未だに安全神話のままの再処理工場

## 日本原燃の回答

# 「全電源喪失は通常では考えられない」



YAM 画

福島原発事故を目的の当たりにして、全国二三市民団体は「再処理工場における放射能環境放出事故に関わる緊急要請・質問状」を(株)日本原燃川井吉彦社長に提出し、六月三日にその回答書を受領しました。その全文について、私達の批判コメントを加え「岩手の会」ホームページに公開しています。

回答書は、廃液は「漏えい検知システムがあり、適切に回収する設備があるので外部漏えいはない」とし、「故高木仁三郎氏の漏えい事故想定は科学的根拠が示されていない」などとする強弁を繰り返すもので、福島原発震災から何も学ぼうとしない驚くべき内容でした。

「原発安全神話」が崩れ去った今に至っても、地震国日本における高レベル放射性廃液の環境への漏えい大災害の恐れを直視しようとしめない旧態依然たる原燃回答であり、再処理推進政策の即時撤退を訴えます。

### 高レベル放射性廃液は

### あること自体が危険!

廃液は十基のタンクに貯蔵。冷却

回答書では、高レベル放射性廃液は一〇基のタンク(容量総計六八〇立方メートル)に分散して貯蔵されているが、溶液の組成と分散の状況は、商業機密」と言っています。機器や配管は腐食しにくいステンレス鋼などで作られ、一系列の冷却コイルと冷却ジャケットが設置され、冷却を行っているとのこと。確実に漏えいを検知し回収するので、外部に漏えいすることはない」と断言しています。

「外部電源は二系列」といえるのか?

高レベル放射性廃液は崩壊熱を出すので冷却しなければ約一五時間沸騰を始めると言われていています。冷却は外部電源で行われていますが、外部電源は二系統より給電」とあります。しかし、原燃の保安院への報告書では、東北電力の北上変電所から六ヶ所変電所を経て一ルート二回線である」としています。変電所で事故があった場合や送電線の倒壊など、電源喪失の危険は否定できません。水素掃気機能停止は大丈夫か?

高レベル廃液は強い放射線によって水が分解され水素が発生しま

す。その水素の掃気のために電源が必要で

す。外部電源が喪失し、非常用電源もだめならば、電源車を繋ぎ込んで、空気が圧縮機や排風機を運転し水素の滞留防止を継続すると言います。しかし、発生する水素は数時間で爆発下限濃度になるといいます。電源車は間にあるのでしょうか。四月二日に緊急時安全対応訓練を実施し、「一時間弱で電源車の対応が出来た」と書かれています。実際の地震によって工場内が破壊された場合には様々な障害が予想されます。

### 使用済み燃料プールは満杯の三千トン!

高レベル廃液タンクに近接して、使用済み核燃料プールがあります。四月二十八日現在二八三四トン(一万一五七〇体)が運び込まれており収容能力三〇〇〇トンに対して、あと一六六トンで満杯になります。このようなゆとりのない状況で点検や修理など困難な状況と思われるため、原燃から取り出して

から平均一三年経過のものといひ、発熱量は一千分の一まで下がっているといひますが、それでも冷却しなければ発熱爆発の恐れがあります。冷却が途絶えると「二〇日で沸騰」し、さらに「燃料露出まで四〇日」と回答しています。近接の高レベル廃液タンクが事故を起こした場合には、使用済み核燃料プールにも人が近づけず、三千トンもの核物質が極めて危険な状況に置かれます。

## 耐えられるのか！ 直下型大地震に

直下活断層の存在が日本活断層学会で報告されましたが、回答では「平成一八(二〇〇六)年九月改正の耐震設計指針に基づいて大地震に耐えられる」としています。しかし、その揺れに対する耐震性加速度(耐震性)上限は四五〇ガルに過ぎません。二〇〇八年六月の「宮城・岩手内陸地震」では一関市蔵美町の観測地点(防災科学技術研究所)では四〇二二ガル(全方向合成)が記録されました。

## 科学的論を回避する官僚

驚いたことに、故高木仁三郎氏の「高レベル廃液一〇〇立法」を含むタンクが破壊され内蔵放射能の1%が環境に漏れ出した場合、青森県は全員避難、被害は名古屋付近まで及ぶ」という指摘に対して「科学的根拠が示されていない」として逃げています。どの点が科学的に言って根拠不明なのか具体的に指摘し、事業者としての独自の評価を公表する義務が、原燃にはありません。

(注) 故高木氏の論文について本紙第九一号参照

さらに、変動地形状の渡辺満久教授の指摘についても「原燃のボーリング調査などでは、約一二一三万年前(第四期後期更新世)以降大陸棚活断層の活動はなかった」として、「直下活断層は考慮しない」としました。変動地形状学では、海面の進退がゆっくりで明瞭に痕跡を残している約一二万五千年前の海岸段丘面(S面)の変遷を正確に読み取り、その後の下北半島における

# 泊原発を止めよう！

## 抗議声明

多くの反対の声を踏みにじり、ありもしない「安全委員会によるダブルチェック」にしがみついた、北海道知事の泊3号本格運転再開の了承に抗議する。

北海道・泊原発二号機は不適当な「調整運転」を続けた末に、「営業運転再開」が強行されました。八月十七日、原子力安全委員会が再審査を受けたとして高橋北海道知事が「再開」に同意したためです。住民説明会の開催や周辺市町村への十分な説明もなく再開を急いだ政府と知事に対して厳しく抗議し怒りの声を届けねばなりません。

Shut泊グリーンアクション、国際環境NGO FOFE JAPAN、福島老朽原発を考える会、美浜・大飯、高浜原発に反対する会

北海道の高橋はるみ知事は、本日一七日午後、泊3号の本格運転再開を了承すると表明した。これによって、海江田経産大臣は泊3号の定期検査終了を認め、北海道電力は本格運転を再開しようとしている。私たちはこ

直下型地震の実例を指摘しています。

(注) 渡辺教授の海岸段丘面の変遷については本紙第六六号参照

## 何を学んだのか！ 福島原発事故から

福島原発大事故は未だに収束せず、数万人がふるさとを追われました。放射能被害は、予測も出来ない状況です。原燃回答書は、福島原発事故は痛恨極まりない」としながら「当社と

しては安全対策を一つ一つしっかり確認・検証し安全な設備作りに全力で取り組む」と結んでいます。しかし、これほど空疎な言葉があるでしょうか。「安全な原発」「安全な再処理」という「原発安全神話」は完全に崩壊しました。日本政府と原燃は、再処理路線から撤退し、作ってしまった高レベル放射性廃液の安全策に全力で取り組み、日本と世界の安全を回復させなければなりません。

れに強く抗議する。

福島第一原発事故後に初めての本格運転となる泊3号の運転再開について北海道内はもとより全国から反対の声が知事や道議会議員及び泊原発周辺町村に届けられた。北海道の市民は道庁前で連日の座り込み、デモ、ピラマキなどで反対を訴えた。福島第一原発事故によって北海道に避難されている人々も加わった。

セコ町、余市町等は、知事から情報さえ伝わってこないことに強く抗議してきた。知事は本日の了承表明にあたっても、泊など地元4町村以外のこれら町村の声を聞くことさえしなかった。

昨日の道議会特別委員会は深夜に及び、議員からは早期の運転再開について知事への批判が相次いだ。全国の人々は、福島第一原発の事故の実態も明らかにならない現状で、事故の検証も終わっていない中、事故の教訓が何ら活かされることなく、これまでの原子力

安全・保安院の検査だけで運転再開することに強い抗議の意思を示した。事故後、設置許可の前提となつている安全設計審査指針が誤りだったことは、原子力安全委員会自ら認めていた。

知事は安全性の判断について、最終的に「原子力安全委員会によるダブルチェック」によって安全性が確認されたことを根拠にした。八月十一日に開催された安全委員会の実態は、広く報道などで知られていた。泊3号の運転再開に関する議論はわずか十五分で、班目委員長は、安全委員会としての判断はしないとつくり公言した。「定期検査は原子力安全・保安院でしっかりやってもらうことになっている」「保安院が報告したいと言ってきたので議題にあげただけだ」。安全委員会は、抗議の高まりの中で、当日の記者会見さえ開くことはできなかった。ありもしない「安全委員会によるダブルチェック」という「神話」にただひたすらしがみつき、泊3号の運転再開了承など、断じて許されない。泊3号の本格運転再開を直ちに中止するよう要求する。